

「筋疾患患者における集団受診の有用性」に関する研究 2014 年 6 月 18 日付けの Neurology 誌（オンライン版）で紹介

慢性の神経筋疾患の患者さんにとって、グループで受診する方が個別に受診するよりも有益である可能性を示した研究が Neurology 誌（オンライン版）に報告されましたので紹介します。

オランダにおける多施設共同の慢性神経筋疾患の患者 272 人を対象とした研究で、グループ受診群（1人の医師が1時間半～2時間かけて5-8人診察する）と個別受診群（1人の診察時間を20-30分）との2群に分けて検討が行われました。受診期間終了から1週間、3カ月、および6カ月後に生活の質（quality of life: QOL）に関するアンケートを実施したところ、グループ受診群では、個別受診群と比較してQOLのスコアが平均3ポイント高かったといった結果が示されました。著者の Femke M. Seesing 氏（Radboud University Medical Center）は、「グループ受診では医師から患者個人への薬物療法や生活指導に加え、他の患者の経験から学ぶ機会があることで QOL 向上に極めて有益である」と述べています。特に難治性の神経筋疾患のように根本的な治療法が確立されていない疾患では、一般的なケアや治療では解決しない複雑な問題を抱えている患者さん仲間同士のピア・サポートを組み合わせたグループ受診が有益である可能性が高いと考えられ、今後の研究の推進が期待されます。

論文を読んで大変勉強になりました。診療の参考になるのではないかと思います。筋ジストロフィーなど神経筋難病患者さんやご家族から、「医療者のアドバイスは役に立つことも多いが、別世界からの意見に感じることも多い」とご指摘をうけることもあります。そんななか、神経筋疾患の患者・家族同士でいい関係を築いている方々は、同じ悩みを共有し触れ合うことで、一緒に病気に立ち向かう同士がいるのだと、医療スタッフの支援とは別の意味で心強い気持ちになるのだと思います。一方で、患者さんはそれぞれ家族、環境、病気の進行など様々ですので、「グループ受診」が一概にいいとばかりはいえず難しい面があるのも事実だと感じています。

日本でも、筋ジストロフィー協会のピア・カウンセラー講座がよく知られていますが、筋ジストロフィー協会福岡診療所（竹下研三先生）のピア・カウンセリングについての説明（ウェブサイト）をご紹介します。よかったら論文と一緒に、ご覧になってください。



<http://fukuokashinryosho.web.fc2.com/peercounseling.html>

（国立病院機構熊本再春荘病院 神経内科 石崎雅俊）